

国も市も 無法状態に なりつつある



■憲法違反の安保関連法を強行可決

現安倍自公政権の暴走は目に余るものがある。多数をかさに着てまさにやりたい放題だ。憲法に反する法律を多数決で押し切る。

色んな考えがあつていい。憲法といえども手続きさえ踏めば改定は可能だ。しかし戦争を禁じた憲法はそのまま、戦争の出来る法律を押し切った。戦争は出来ると勝手に解釈した。

自民を支持していた多くの改憲派の人たちも、このやり方はいかがなものかと、離れていった。しかし一方で戦争容認論者たちは我が意を得たりと狂喜乱舞。結果オーライでいいじゃないか。と。

制限速度30キロの道路が走りやすくなって80キロで走れるようになったとして、まず速度制限を80キロに決定してのち、走る分には問題ない。

現状で80キロで突っ走って、スピード違反の切符を切られて、罰則を拒否し開き直っているようなものだ。そのうち80キロの標識が立つだろう。と。

こんなことがまかり通れば、まさに無法状態だ。多数決の横暴の極み。これが今のニッポン国だ。

■島原も似たり寄ったり

島原の自民党市会議員は、そこまで腐つてはいないと思われるかもしれない。が、まあ似たり寄ったりというところだ。先の3月議会での暴挙を紹介したい。

■28年度予算を否決

この島原市3月議会、予算委員会でのこと。自公連合会派の圧倒的多数をもって新年度予算が否決されたのでした。

反対討論に立った4人中3人までもが「勤労者会館の借用料が安すぎて赤字経営を改善する意識が感じられない。」などとイチャモンを付けたのでした。

もともと勤労者の福利厚生施設なのだから公民館同様、採算はとらない赤字当然の施設。

なのに「これまで何十年来言い続けたのに改善されていない。」と。

ところが、実はこの施設の利用料金についてはわずか2年前に料金改定の条例が出されて、その時は彼らの言う安すぎる借用料を妥当として承認していたのでした。

法廷料金で組まれた予算案を否決し条例なんぞ関係ない！多数決で何でもできる！とやったのでした。

■もともと意地悪が目的？

予算を凍結すれば大混乱になるわけで、最初から、修正案で決着する予定だったようで、市長に対して議会の力を見せつけたかっただけだと松坂は解釈しています。

本会議までの数日、松坂はこの違法性を訴え、彼らの理屈が通らないことを主張しました。結果的に、修正案に勤労者会館予算削減は盛り込まず尻切れトンボでした。

最後まで突っ張れなかったのは、自民国会議員よりましなのか、腰抜けなのか？その精神構造は似たり寄ったりです。